

ドラマデザイン社公演

「清らかな水のように
〜私たちの1945〜」

脚本・千葉美鈴

【登場人物】

新藤 しんどう ありさ (17)
……都立女子高校二年生

辻 つじ マキ (17)
……都立女子高校二年生

神里 かみさと いずみ (17)
……清泉城女子学徒隊・リーダー
両親への復讐を誓う

上江洲 うえす 勇子 (17)
……清泉城女子学徒隊・副リーダー・笑子の姉

上江洲 うえす 笑子 (15)
……清泉城女子学徒隊・勇子の妹

我那覇 がなは 文 (16)
……清泉城女子学徒隊

下地 しもじ 好江 (16)
……清泉城女子学徒隊

岡本 おかもと 信二 (25)
……ありさとマキの担任

友部 ともべ 文成 (25)
……雨倉の部下

雨倉 あめくら 一郎 (35)
……日本軍兵士。清泉城女子学徒隊・隊長

○プロローグ・沖縄2016年6月

そこは沖縄県南部・糸満の『平和資料館』。

担任の岡本信二(25)が資料を手に客席を通りステージに。

岡本　　いいか君たち、都立白亜女子高校・修学旅行三日目は、『平和学習コース』の集大成だ。(ステージに上がり)ここ糸満の『平和資料館』で沖縄戦体験の方に貴重なお話を伺う。体験者の方は高齢のため、今日の講話を持って引退されるそうだ。つまりもう二度と聞けないということだ。こんな機会は滅多にないぞ。耳をかつぼじって聞くように。分つてると思うが私語厳禁！ 飲食禁止！ 携帯の充電は切っておけ！　いいな！
それでは点呼を取る。A班、田中はいるか？　B班森田。C班高橋。D班新藤。新藤？　おい新藤ありさ！　新藤と、辻マキもいないな。あいつら……また抜け出したのか！(と去る)

○近くの洞窟

制服を着た女子高生……新藤ありさ(17)。

ミニウォッカボトルを飲みながらやって来る。

ありさ　　ばっかじゃねえの、何だよ、『平和学習コース』って！

その後ろ、漫画本を読みながら歩く辻マキ(17)。

ありさ　　戦争なんて大昔のことだし。いまさら聞いてナニになるっつーの？　しかも岡本ウザいし。無駄にアツいし。新任だからって張り切り過ぎなんだよ。

マキ　　同感。あの人毎回滑ってるしね。ホント嫌い。

ありさ　　そこで行っちゃわけですよ。私達は。マキ、沖縄と言えば……？

マキ　　(アドリブで)○○

ありさ　　違う！　海でしょ海！

マキ　　ああ。

ありさ　　沖縄来たのに海行かないなんてありえない。マキ、海と言えば……？

マキ　　青い海、白い砂浜……？

ありさ　　違う。青い瞳に、白い肌！

マキ 青い瞳に白い肌？

ありさ ナンパだよナンパ。沖繩には米軍基地があるからね！ イケメンのアメリカンに声かけられちゃったりして。

マキ でも米軍基地って南部にあったっけ？

ありさ ないの？

マキ 多分。

ありさ でも、ほら、休暇とかで来てるかもしれないし？

マキ ま、いいけどね。私はナンパなんて興味ないし。

ありさ マキは想像して楽しむだもんね。(漫画本を奪い) 男が男を好きになる話の、何が面白いんだか？

マキ キュンキュンするじゃん。

ありさ しない。てかキモい。だから友達いないんだよ。

マキ 余計なお世話。ありさだってウオッカ煽ってるからハブられるんだよ。

ありさ ハブがいる？ え？ どこ？

マキ ハブられる！

ありさ ああ。別に。どーでもいいし。

マキ てかさ、こっちで合ってるの？

ありさ そろそろかな。ほら、耳を澄ませば……ザワワザワワ…

マキ 聞こえないよ。

ありさ 方向はあってるはずなんだけど。(スマホを見て) 地図によるとこの洞窟を抜けたら、海って—

マキ (覗き込んで) え？ 違うじゃん。全然違う。(スマホを逆にして) 見方を逆だから。

ありさ えっ!?

マキ もう勘弁してよ！ 戻るよ！

踵を返すありさとマキ。

ありさのスマホが鳴る。

ありさ あ…

マキ 岡本？ 抜け出したのバレた？

ありさ ううん。じゃなくて。

マキ ああ、母親ね。

ありさ 何度電話してくれば気が済むっつーんだよ。

いずみ (首をふる)

好江 あの中に、友人がいたんです。昨晚、久しぶりに再会できて、お互い生きのびることを誓ったのに。

いずみ 一足遅ければ私達の命もなかったでしょう。

好江 ……

いずみ 好江さん、幸か不幸か、私達は襲撃を免れました。いまは逃げることだけを考えるんです。

好江 でも……米兵の攻撃は、日に日に激しくなるばかりです。私、逃げ切れる自信はありません……。

いずみ 好江さん。確か好江さんには婚約者がいるんですよね？

好江 はい……。いまは内地に行っています。

いずみ 婚約者やお友達のためにも、生きなければいけません。

好江 いずみさんは強いですね。

いずみ 強くなっております。私はただ、清泉城女子学徒隊の教えに従ってるだけです。

好江 ……。

いずみ 急いで掘りましょう。米兵が攻めてくるかもしれません。

好江 はい。

二人、舞台そで(芋畑)を見る。

いずみ・好江 ……？

倒れているありさとマキ。

好江 亡くなっているのでしょうか？

いずみ (近づき) 大丈夫ですか？ 意識はありますか？

いずみが二人の体をゆらす、反応はない。

いずみ、好江の元に戻る。

いずみ 残念ですが亡くなっているようです。傷はないようなので、飢え死にしたか、病に倒れたか……。

好江 自決をしたのかもしれませんが……。

いずみ ええ、そうかもしれません。

二人の会話の最中に、目を覚ますありさ。

(いずみと好江は気づかない)

ありさ ……ん？ 何…？ マキ。

マキ (起きて)……「どこどこ」？

ありさ 分ないけど、洞窟が崩れて…

マキ そうだった…早く戻ろう。あの人たちに道を聞けば—
ありさ うん。

と、立ち上がり二人に近づく。

いずみ 野ざらしにしていたら腐敗します。

好江 畑の土をかけて埋葬しましょう。

いずみ ええ。安らかに眠れるように、悼みましょう。

と、振り返るとありさとマキがすぐ側に。

いずみ・好江 (悲鳴)

ありさ・マキ (つられて悲鳴)

いずみ 驚かさないで下さい！

ありさ それはこっちの台詞！

いずみ 生きていたのですね。てっきり亡くなったものかと。

ありさ はあ。勝手に殺さなくてくれる？ それより私達、戻りたいんだけど。あの何だっけ、えっと—

マキ 平和資料館。

ありさ そうそう。平和資料館ってどっちか知ってる？

いずみ 何ですかそれは？

好江 さあ…。

ありさ 糸満の平和資料館だよ。戦争の資料とか置いてるとこ。

いずみ 何を言ってるんでしょう。

好江 サッパリです…。

いずみ それより、あなたたち、何ですか、その格好は！

ありさ それもこっちの台詞だし！

いずみ もんぺはどうしたんです？

ありさ もんぺ？

好江 どの部隊だったんですか？

ありさ ぶたい？

好江 記憶喪失でしょうか？

いずみ いえ、きつと……この方たちは……

ありさ 何言ってるの、こいつら。

マキ 分かった！ 体験コースだよ。

ありさ 体験コース？

マキ あったじゃん。『平和学習コース』の中に、体験コースが。戦時中の女学

生になりきって、当時のこと学ぶってやつ。

ありさ ああ……そっか。いや、ホントにサボって良かったね。あんな格好させら

れるなら、死んだ方がマシだし。

マキ あの、私達は都立白亜女子高校から修学旅行で来たんです。

いずみ 好江さん。聞いたことありますか？

好江 いいえ。

マキ あんたたちどこの学校？

いずみ 私は首里女子学院の5年でしたが……

ありさ 五年？ こいつ馬鹿なの？ 留年しまくりじゃん？

マキ でも留年だったらずっと3年だから。むしろ進級してるよ。

ありさ え？ どういうこと？ 頭いいってこと？

マキ さあ。

雨倉の声 何をしている！

そこに現れる雨倉一郎(35)。

ありさ 今度は兵隊……？

いずみ 雨倉隊長！

雨倉 芋ほりに何分かける気だ。(気付いて) 何だこいつらは……？

いずみ はい。都立白亜女子高校とやらにいたそつななのですが、迷子になって気絶しておりました。

雨倉 そんな学校は聞いたことないな。お前等どこの部隊だ？

ありさ 部隊って何。

マキ 担任は岡本先生ですけど。

雨倉 岡本部隊なんてないぞ。

好江 逃げ惑う内に記憶喪失になったのではないのでしょうか。

いずみ いいえ記憶喪失ではありません。きっとこの方たちは、頭がイカれてしまっただのです。

ありさ・マキ はあ？

雨倉 無理もない。若い女性徒には敵しすぎる現実だ。

ありさ イカれてるのはそっちだろ。疲れるわ。

マキ 拉致あかない。行こう。

ありさ うん。

行こうとするありさとマキ。

雨倉 おい、待て！

ありさ 何！

雨倉 向こうにはアメリカ兵がいる！

ありさ マジで？ ラッキー！ 道教えて貰おう！

雨倉 何を馬鹿なことを。本当に頭がイカれているようだ。止むを得ん。連れて行くぞ！

いずみ ですが、人数が増えれば、敵に見つかりやすくなります。

好江 それに頭がイカれているなら、何をするか分かりません。

雨倉 だが万が一捕らえられたら、我々の居場所を密告されるかもしれん。

いずみ ですが……

雨倉 おい！ お前等。

「はい！」と現れる上江洲勇子（17）、上江洲笑子（15）、

我那覇文（16）。

雨倉 二人を捕まえろ！

勇子・笑子・文 はい！

少女たちがありさとマキを捕まえようとする。

抵抗するありさとマキ。

辺りにドドドドの激しい音が響き渡る。

○森のどこか

命からがら逃げて来た一同。

ありさとマキはその場にへたり込む。

雨 倉 全員いるか！？

いずみ 神里いずみいます！ 上江洲勇子！

勇 子 います！

いずみ 上江洲笑子！

笑 子 います。

いずみ 下地好江！

好 江 います。

いずみ 我那覇文！

文 います。

雨 倉 負傷した者は！

一 同 (首を振る)

いずみ いません！ 全員、無事です！

雨 倉 頭がイカれた二人は！

いずみ あなたたち、ケガは？

ありさ・マキ (首を振る)

いずみ 無事です。お名前は？

ありさ ……新藤ありさ。

マ キ 私は……辻マキ。

いずみ ありささんとマキさんね。

ありさ ねえこれどういうこと？ 何なのこれ？

勇 子 雨倉隊長、もしかすると二人は、頭がイカれているわけではなく、何も聞

かされていないのではないのでしょうか。

雨 倉 可能性はあるな。教えてやれ。

勇 子 心して聞いて下さい。一週間ほど前、女子学徒隊に解散命令が出ました。

ありさ 女子学徒隊？

マ キ 解散、命令……？

勇 子 私達は南部のガマで負傷した兵隊さんの治療や食料調達、水汲みなどを行

っていました。ですが米兵の攻撃が激しくなり、残念ながら殆どの兵隊さんが亡くなってしまいました。このままでは全滅してしまう……それで女子学徒隊は解散されることになったのです。

笑子 突然、解散を宣言されても、どうすれば良いか分からなくて。

文 行く当てもなく途方に暮れていたところ、こちらの雨倉隊長に救われたのです。

好江 私達は清泉城女子学徒隊。清い泉は私たちの証。

いずみ 泉に湧く水のように、清く正しく、そして米国に屈しない、真の強さを持つているのです！

M1 (校歌)

いずみ、勇子、笑子、文、好江の歌。

やがて歌が終わり……

ありさ ……何、言ってるの……？ いい加減にしてよ！ あんた等、おかしい！ 体験コースだか何だか知らないけど、そんな格好して、なりきり過ぎ！ バッカじゃないの！

マキ もしかして……

マキ、鞆を漁り、何かを探す。

取り出したのは『平和学習コース』の資料。

マキ ありさ、見て。

ありさ 戦争の資料……？

マキ 体験コースにはリアリティありすぎだよ。この人たちが化粧もしてないし、お風呂入ってないくらい匂うし、服もボロボロだし……

ありさ え……

マキ それに体験コースに本物の銃使う？ アメリカ人まで兵隊の格好してた。私たちが殺そうとしたんだよ。

ありさ 何それ……それじゃあ……私達……

マキ うん……（いずみに）いまは西暦――

いずみ （咳払いして）皇紀2605年、（小声で）西暦1945年6月です。

ありさ 1945年……私達、戦時中に、来ちゃったの……？

マキ (うなづく)

ありさ そんな……。

茫然自失のありさとマキ。

文 雨倉隊長、ふたりは荷物を持っています。

雨倉 ヨシ、回収しろ！

文 はい！

文と笑子が、ありさとマキの鞆を奪う。

ありさ あっ、ちよっと！

雨倉 お前の物はみんなの物！ みんなの物はみんなの物だ！

笑子 あっ！ 食料発見！

笑子と文がありさやマキの鞆から物を出して行く。

笑子 すごい！ サキイカって書いてます！

文 水もあります！

笑子 いっただきまーす！

文 笑子ちゃん！

サキイカにかぶりつく笑子。

(※日替わりで様々なおつまみ系で)

笑子 美味しい！ 噛めば噛むほど味が出る！ こんな初めて！

文 ……私も(食べる)！

堪らなくなった少女たちが、「私も」と鞆の周りにあつまる。

一斉にサキイカを食べて喜ぶ。

どうすることも出来ないありさとマキ。

ありさの鞆から煙草を見つけた雨倉。

雨倉 おお〜煙草か！ こんな贅沢品、何か月ぶりだ。(嗅いで)んんこの匂い

……こんな上質な香りは初めてだ……（呟えて）微かにタールとニコチンの味がする……生き返るとはこのことだ。銘柄は……（見て）アメリカンスピリッツ！（煙草を捨てて）日本兵がアメリカ人の精神を吸えるか……しかし……ちょっとだけなら……いやダメだ……一口なら……いや許されぬ……（葛藤して）俺はどうすればいいんだ！

一方、マキの鞆を漁った文が漫画本を見つけて。

文 これは本……まさか戦時中に本が読めるなんて。（ページを捲りキャラになりきり）『アキラ、教えてくれ。お前の気持ちを聞かせてくれ。』『大介、俺は、俺は、お前のことを愛している』『アキラ』『大介』『ぶちゅー……』
ああ、何てロマンティックなんでしょう……って、えええええ！？

笑子 どうしたの？

文 分りません。（混乱）何が何やら。いったいどうして。これはどういう。

笑子 何言ってるの？（見よつとする）

文 ダメです！ 目が腐る！ この世のものではありません！

そこへ来るマキ。

マキ 返してよ！ 宝物なんだから！

漫画を奪って大事そうに抱くマキ。

信じられないという目の文。

ありさ マキ、帰ろう！

マキ え？

ありさ あの洞窟に戻ろう！

マキ でもアメリカ兵が……

ありさ だとしても、こんなところで戦争に巻き込まれるよりいい。あの洞窟に行けば、きつと戻れるよ2016年に。

マキ そうだね。

ありさ 行こう！

ありさとマキが行くつとする。

そこに立ちはだかる雨倉。

雨倉 待て。行かせられん！

ありさ え……？

雨倉 お前らは俺たちと共に来るんだ！

ありさ 私達は関係ない！ 修学旅行で来たただだし、ただ海に行こうと思って抜け出しただけ！ 戦争なんて知らない！

いずみ でも、二人が出ていったら、私達まで見つかるかもしれない。

ありさ だから何！ あんた等がどうなるうと、どうでもいいし！

雨倉、パチンと平手打ち。

ありさ 痛ってえ……何すんだよ！

グーで殴られる。

ありさ、意識を失う。

雨倉 勝手な行動は、全員の命を危険にさらす。

マキ (駆け寄り) ありさ！ ありさっ！

ありさは動かない。

溶暗。

○近くのガマ(夜)

ポチャンポチャン。

明るくなると、膝を抱えているありさとマキ。

マキ 大丈夫……？

ありさ うん……。

マキ 今の時代だったら、あいつ刑務所行だよ。

ありさ うん……。

マキ どうしてこんなことになったんだろっ。

ありさ マキ、ごめんね……

マキ え……

ありさ 私が海に行こうって言わなければ。私が道を間違えなければ。

マキ 謝るなんてありさらしくない。

ありさ ごめん……

マキ だから。

ありさ ごめん。……あ、ごめん。

マキ (思わず笑ってしまう) ……これからどうしようか。

ポケットから戦争の資料を出すマキ。

マキ 女子学徒隊……。資料によると、女子学徒隊が解散された後、殆どが死んだって。アメリカ兵に撃たれたり、自決したり……。このままじゃ私たちも……。

ありさ 何だよ。何の罰ゲーム？ 私達なんか悪いことした？

マキ 授業サボった。

ありさ そんなの割りに合わない。マキ、洞窟、戻ろう。

マキ でもアメリカ兵がいっぱいいる。それに洞窟の場所覚えてる？

ありさ ……覚えてないけど……じゃあどうするの？

マキ 誰か助けに来てくれないかな。岡本、今ごろ私たちのこと捜してるのかな。搜索願とか出てたりして。

ありさ うん……(ハッ) そうだ！

ポケットからスマホを出すありさ。

マキ スマホ？

ありさ これで連絡が取れるかも！

マキ でも……

ありさ って、(見て) 圏外だよね……。

ありさ、ポケットからウォッカを出して煽る。

ありさ はあ。生き返る。飲む？

マキ ……うん。(煽る)

ありさ 全部、夢だったらいいのにね。寝て起きたら夢でしたって。

マキ そうだったら、いいね。

と、そこへそこそと来る文と笑子。

文 あの……。

マキ あんた……

文 私は我那覇文。文って呼んでください。

笑子 私は上江洲笑子。笑う子と書いて笑子。ちなみにお姉ちゃんは勇ましい子
って書いて勇子。

ありさ 何？ 何か用？

文 あの、ケガ、大丈夫ですか？

ありさ ああ……うん。

文 雨倉隊長、普段はあんなことしないんです。みんなを守るために仕方なく。

ありさ そんなこと言いに来たの？

文 あ、いえ。さっきのを見せて貰えないかなと思って。

ありさ さっきの？

マキ あ、これ？（と、腹から漫画を出す）

文 そうです、それです。

マキ 別にいいけど、汚さないでよ。宝物だから。

手をモンペで拭き、漫画を開く文。

文 これを読みたかったんです。「アキラ、愛してる」って、違います！

と、漫画を投げ捨てる。

マキ ちょっと！

文 そんな如何わしいもの、読みたいわけないじゃありませんか。

マキ 如何わしくない！ 人の宝物にケチつけないでよ！

ありさ あ、もしかして、これ？

と、戦争の資料を掲げる。

文 そろそろ。それです。

読みふける文。
それを覗き込む笑子。

文 女子学徒隊のことが沢山書いてある……こんな恐ろしい物どこで手に入れたんですか？

ありさ 修学旅行の資料で配られたんだ。

マキ 私達、東京から沖繩に修学旅行で来たの。

文 はあ……マキさんとありささんは本当に未来から来たんですか？

マキ そうみたい。

ありさ 信じたくないけど。

笑子 文さん、信じるの？ この人たち、頭おかしいんだよ！

文 確かに到底信じられない話です。でももしも本当なら、すごいことですよ。

笑子 それはそうだけど……。

文 証拠はありますか？

ありさ 証拠……？

文 未来から来たという証拠です。

ありさ 証拠なんて……

マキ ありさ、それ。(スマホを示す)

ありさ あ、これ。スマホって言うの。

文 スマホ？

ありさ これで電話が出来るの。いまは圏外だから繋がらないけど、ネットで色々調べたり、写真撮ったり。

文 電話と辞書と写真機が一緒になってるってことですか？

マキ LINEも出来るよ。あ、LINEってのはチャット。チャットっていうのは……短い手紙みたいな？

文 切手はどこに貼るんです？

マキ そんなのいらないよ。

ありさ 他にもアプリっていうのを使えば色々出来る。

文 へえ……未来はすごいんですね。

笑子 そんな魔法みたいな道具あるわけないでしょ。

ありさ こっち向いて。

ありさ、笑子に向けて写真を撮る。

笑子 何？

ありさ ほら。(と写真を見せる)

笑子 これ……私……？

ありさ 加工も出来るよ。(とスマホをいじる)色白にして、目を大きくして……
ほら。

笑子 (見て)なにこれ！ 私……？

ありさ 信じた？

文・笑子 ……(顔を見合わせ)

ありさ ねえ。こっちも聞きたいことあるんだけど。

文 何でしょうか。

ありさ あんた等、どこに向かっているの？

文 分りません……

ありさ 分らないで、ただ逃げ回ってるだけ？

文 私達は雨倉隊長について行ってるんです。

マキ 雨倉って、さっきの兵隊？

文 ええ。雨倉隊長は立派な兵隊さんです。私たちのことを守るために、共に行動してくれてるのです。

舞台そでに雨倉が出て来る。

手に煙草を持っている。

それに火をつけようとすると、現れる友部文成(25)。

友部 雨倉上等兵！

雨倉 友部。

友部 報告いたします。南部は既に米軍に囲まれています。もはや袋のネズミ。
見つかるのも時間の問題です。

雨倉 そうか、やはりな……。

友部 早朝なら米兵の攻撃もありません。陽の昇らない内に、どうか突撃の指示
を。

雨倉 だが、それは時期尚早だ。

友部 彷徨えは彷徨うだけ体力を消耗します。特に少女たちの体力の消耗は切実
です。歩けなくなる前に突撃させた方が敵に打撃を与えられます。

雨倉 それはそうだが……我々は被害の少ない北部の部隊と合流しようと考え

ている。突撃は北部の部隊の武器を手に入れてからだ。

友部 散弾の雨が降る中、北部へ向かうなど、無謀すぎます！

雨倉 重々承知している。だが突撃するからには、意味のある物にしたい。

友部 ……分かりました。しかしここ数日の雨で北部への道が途絶えているかもしれませぬ。

雨倉 偵察に行ってくれるか。

友部 私はどんな時も、雨倉上等兵の命令に従います！ 誇り高き帝国軍人ですから！

雨倉 頼んだぞ。友部……。

去る友部。

それを見送り、はける雨倉。

反対側の袖にいたありさ、マキ、文、笑子。

文 きっと雨倉隊長が守ってくれる。だから希望を持ちましょう。

いずみの声 何をしているのです。

やって来る勇子といずみ。

勇子 笑子！

笑子 お姉ちゃん。この人たち、本当に未来から来たかもしれない。

勇子 え？

文 いずみさん、勇子さん。これを見て下さい。

資料を見せる文。

勇子といずみがそれを見て。

勇子 何です、これは……。

いずみ 米兵から渡されたのですか？

ありさ はあ？

いずみ あなたたち、まさかスパイですか？

ありさ どうしてそうなるの？

いずみ 米兵はこんな出鱈目の宣伝ビラを書いて、私達を絶望させる作戦なので
は？

ありさ そんな手の込んだことする訳ないでしょ。
いずみ 分りません。相手は鬼畜米兵。今さら何をしようと驚きません。
勇子 笑子、いつぞや敵が攻めて来るか分かりません。体を休めましょう。
笑子 はい。

行ってしまう笑子と勇子。

いずみ 文さん。

文 スミマセン。おやすみなさい（と去る）。

いずみ 何を企んでいるんです。

ありさ どういう意味？

いずみ こんな嘘を吹き込んで。一体何がしたいのです。

ありさ 嘘なんてついてない。

いずみ 余計なことをしないで下さい。これ以上、彼女たちの心をかき乱すことをしたら、許しません。

去るいずみ。

取り残されたありさとマキ。

ありさ 何あの人。偉そうに。

と、上からガガガガガ。

マキ 何の音？

ありさ え？

ポチャン。

上から水滴が落ちて来る。

マキ 何だろう……

ありさ 雨もり？

マキ （匂いを嗅いで）油……？

ありさ 油？

いずみ 雨倉隊長！ 水の音がします！

雨倉 何！？ 小川か！

いずみ 恐らく。

雨倉 ヨシ。陽が上る前に、水と食料の確保だ。

少女たち はい！

いずみ 水を汲む係は勇子さん、笑子さん、好江さん、それからマキさん。

マキ え……

いずみ 食料を調達する係は文さん、私、そしてありささん。

ありさ 私も……？

雨倉 当然だ。働かざる者食うべからず。ただで食料にありつけると思っな！

陽が上るまで時間はない！ 行け！

少女たち はい！

少女たち、二組に分かれてはける。

○森の中

食料を調達しに来たいずみ率いるグループ。

周りを警戒しながら歩いて来る。

ありさ ったく何なんだよアイツ……

いずみ 先を見てください。ここを動かないように。

文 はい！

いずみは去る。

残されたありさと文。

ありさ あの、リーダーなの？

文 いずみさんですか？

ありさ そう。

文 いずみさんは一番年上なんです。清泉城女子学徒隊には、ひめゆりと違って引率の先生がいまさんから。いずみさんが先生の代わりをしてくださってるんです。

ありさ フーン。それにしても随分、偉そうだけど。

文 そんなことはありません。常に気を張って、私たちの面倒を見てくださってるんです。感謝の言葉しかありません。

袖から顔を出すいずみ。

いずみ いらしてください。敵はいません。

一同ははけて行く。

反対側の袖から出て来る勇子率いるグループ。

勇子 (見つけて) ありました！ 水です！
マキ うわあ！ 喉からから。

小川に駆け寄るマキ。

すくおうとするが、

勇子 待ちなさい！
マキ え？
勇子 無暗に手を入れてはなりません。
笑子 米兵が毒を流しているかもしれないから。
マキ 毒！？
勇子 好江さん。
好江 はい。

好江、虫を捕まえて水に入れる。

好江 平気なようです。

勇子 ではまずは汲みましょう。

笑子・好江 はい！

マキ 飲んでいいの？

勇子 先に皆さんの分を確保するんです。

好江 飲んでいる間に襲われたら、皆さんの分を持ち帰れませんから。

水を汲み始める勇子ら。

反対側の袖から出て来るいずみ等。

いずみ ここで食料を調達します。

ありさ 食料なんてないじゃん。

いずみ たくさんあるではないですか！

ありさ どこに。

文 木の実にキノコ。見て下さい。カエルもいます！

ありさ カエル？ 冗談！？

いずみ 冗談なんか言っている場合ですか？ 早く捕まえるのです。

ありさ ヤダよ。気持ち悪い。

いずみ お腹が空いたと言ったのはあなたでしょう。

カエルを捕まえようとする三人。

反対側で水を汲み終わった勇子等。

勇子 これくらいで良いでしょう。

好江 勇子さん、飲んでもいいですか？

勇子 ええ。

水をすくう好江と笑子、勇子。

好江 (口にして) はあ！ 体に染み渡ります。

笑子 (口にして) 何日ぶりの水だろう。

勇子 (口にして) 潤っていきませぬ。

マキ (手にして) でもこれ、何か茶色い。濁ってるよ。

勇子 多少濁っていても、水は水です。

マキ 山の水って、ミネラルウォーターになる位綺麗なんじゃないの？

勇子 何を言ってるのです。綺麗な水なんて、もう沖繩にはありません。

マキ (手の中の水を見て) ……

反対側では一同がカエルを捕まえていた。

いずみ これ位で良いでしょう！

文 大量ですね。大事に食べれば二日くらい持つかもしれません。あの、いず

みさん。雨倉隊長に持っていく前に、一匹食べませんか？

いずみ 何てことを。そんなことは絶対に……(グクキュルキュル)

文 体は素直ですね。

いずみ ……一匹だけですよ。

文 はい！

いずみがカエルに岩をぶつける。

ありさ うわっ。嘘でしょ……

いずみが、文、ありさに差し出す。

ありさ いらない。

いずみ では――

いずみ・文 いただきます！

カエルを食べる二人。

文 うわあ。美味しくありません！

いずみ ええ。でも、久しぶりのお肉。嬉しいですね。タンパク質は栄養がありますから。食べないんですか？

ありさ 食べないし。

勇子 飲まないんですか？

マキ 飲めるわけない。

固まっているありさとマキ。

それを見ている少女たち。

いずみ 食べないなら私たちが食べます。

ありさ ……。

勇子 いま飲まないと、次いつ水にありつけるか。

マキ ……。

と、好江と文が歌を口ずさむ。

M2(食べよう・飲むの歌)

勇子 好江さん？

好江 こんな水に慣れてしまった自分が怖いです。でも生きるためには、飲まないといけません。

文 私達、女学校では合唱部だったんです。辛いことがあったり、落ち込んだ時は、歌って励ますんです。

M2(食べよう・飲むの歌)

一同の歌。

舞台の上手と下手でそれはリンクしており、
やがて歌が終わる。

ありさ 私は……私は生きて帰りたい。だから……

意を決して食べるありさ。

意を決して飲むマキ。

ありさ マズっ！ 何これ固い！

いずみ 美味しいわけではないでしょう。

マキ 臭ーいっ。変な味するよ。

勇子 でも、喉は潤ったでしょう。

一同、微笑む。

いずみ さあ、そろそろ雨倉隊長の元へ戻りましょう。

勇子 道を急ぎますよ。

それぞれ逆にはける一同。

真ん中に雨倉隊長が出て来て。

雨倉 遅い……遅い……遅すぎてる！

現れるいずみ等。

逆袖から現れる勇子等。

いずみ 食料班戻りました！

勇子 水汲み班も戻りました！

雨倉 随分時間がかかったな！

いずみ どうぞ、食料です。

勇子 水です！

受取る雨倉。

だがその中身を見て。

雨倉 たったこれだけか！ あれだけの時間をかけてこんなスズメの涙見たいな……ははあん。さてはお前等、勝手に食ったな！

ありさ等 食べてません！

雨倉 勝手に飲んだな！

いずみ等 飲んでません！

雨倉の食料班へのいじり（ミニコント）がある。

雨倉 嘘つけ。お前は顔にカエルの血が付いてる。

文 えっ！（拭く）

続いて、水汲み班へのいじり（ミニコント）がある。

雨倉 それにお前は腹がたぼたぼじゃないか！

好江 おやめください！

雨倉 え！

好江 いやらしい目で見ないで下さい！ 私には婚約者がいます！

雨倉 この目は生まれつきだ！

一同 （同情の目）

雨倉 何だその同情の目は。俺だってな、腹が減って、喉乾いてんだぞ！

ミニコント終了。

ト
の音。

音が近づいて来る。

ありさ 雨倉隊長！

雨 倉 この音は……黄燐弾だ！ 逃げろ！

ありさ みんな、絶対に当たっちゃ駄目！

雨 倉 散れ！ 退散！

逃げ惑う少女たち。

暗転。

○森

明るくなると、ありさ。

ありさ マキ！ マキ！ どー！

現れるいずみ。

ありさ あっ！

いずみ 怪我は？

ありさ 平気。他のみんなは？

いずみ 分かりません。でもきつと逃げ切ったと信じています。

腰かけるいずみ。

ありさ 探しに行かないの？

いずみ 無暗に歩き回るのは得策ではありません。

ありさ ……あんた……先生代わりなんだよね。文さんから聞いた。

いずみ 一番年上ですから。

ありさ 年上って——

いずみ 17です。

ありさ 私と同じだ……

いずみ あなたも？ 見えませんね。

ありさ そう？

いずみ 14くらいかと思っていました。

ありさ いくら何でもそれはないでしょ？

いずみ あなたは向こう見ずで、自己中心的で、阿呆です。今の時代、14歳の方が余程しっかりしています。

ありさ 喧嘩売ってんの！？

いずみ 羨ましいと言ってるんです。私はこの数か月で、何十歳も年をとったようです。

ありさ あのさ……怖くないの？

いずみ 何がですか。

ありさ 死ぬことが。

いずみ ……。

ありさ だっていつ襲って来るか分からないんだよね。今日生きてたとしても、明日には死んでるかもしれない。そんなのよく耐えられるよね。

いずみ (空を見て) ……雨が降りそうですね。

ありさ 雨が降ったら攻撃はやむ？

いずみ 変わりません。でも私は雨が好きです。

ありさ はあ……。

いずみ いずみという名前は父が付けてくれました。泉があれば、土地は潤う。例え強い太陽で泉が枯れる時があっても、水は空にのぼり、やがて雨となってこの地を潤します。泉には生命の循環の意味があるんです。だから——私は、死ぬのは怖くありません。

ありさ よく分かんない。

いずみ いずれ人間は死にます。遅かれ早かれ必ず死ぬでしょう。

ありさ それはそうだけど、でもまだ若いじゃん。やりたいこといっぱいあるでしょ。

いずみ 私にはありません。

ありさ ひとつも？

いずみ ええ。思いつきません。あなたにはあるんですか？

ありさ ……いっぱいあるよ。帰ったらやりたいこと。いっぱいある。

いずみ 例えば？

ありさ ラーメンが食べたい！ 天下第一品のこってりの全部乗せ！ それからカレーも！ チキンカツと温泉卵トッピングしてさ。あと焼肉？ カルビと牛タンとハラミ、それからコースとなんだろ。

いずみ 全部、食べ物じゃないですか。

ありさ 「もう無理！ 勘弁して！」ってくらい、お腹いっぱい食べたい。あ……でも違うかも……。

いずみ え？

ありさ 一番食べたいのは、煮物かも。

いずみ 煮物？

ありさ 薄味で貧乏くさいやつ。お肉とかこんなちっちゃいの。チョーマズイの。

いずみ 何故それが食べたいんですか？

ありさ ……母親の得意料理なんだよ。

いずみ ……その願い……叶うといいですね。

「いずみさん」とやって来る勇子、マキ、文。

いずみ 勇子さん、文さん、怪我は？

文 ありません。

ありさ マキ、良かった！

マキ ありさ、生きてたんだ！

勇子 いずみさん、笑子は？

いずみ ここには来てません……

勇子 私、行ってきます。

いずみ 待って下さい！ 無暗に歩き回るより、待っていた方が。

勇子 待ってられるわけがないでしょう。あの子は、私がいないと何にも出来ないんです！

行ってしまう勇子。

「おーい！」と雨倉隊長が現れる。

いずみ 雨倉隊長！

雨倉 向うにガマがあったぞ。非難だ！

一同 はい！

一同、はけてゆく。

入れ替わりで現れる笑子。

笑子 お姉ちゃん！ 雨倉隊長！ みんな！ どー！

遠くからフ、フ、フ、フ、フ、フの音。
笑子、怯えてしゃがみ込む。

笑子 何でこんなにごんくさいんだらう。いつもそう。みんなに迷惑かけて一人じゃ何もできなくて……。

フ、フ、フ、フ、フ、フ。

笑子 (悲鳴) お姉ちゃん！ 雨倉隊長！ みんな！

カサカサと音がする。

笑子 誰！？

現れたのは勇子。

勇子 笑子！

笑子 お姉ちゃん！

勇子 怪我はない？

笑子 うん。

勇子 行きましょう。みなさんのところへ。

笑子 お姉ちゃん、ごめんなさい。

勇子 どうして謝るの？

笑子 私のせいで、危険な目に遭わせて。

勇子 姉が妹を助けるのは当たり前のことです。

笑子 でも、私がつとしっかりしてれば。

勇子 笑子のせいじゃありません。

笑子 ねえ、覚えてる？ 小さいころ、サトウキビ畑で迷子になった時のこと。

勇子 入ってはダメだと言ったのに、迷い込んでしまっただから。

笑子 でもお姉ちゃんが見つけてくれた。

勇子 笑子が大泣きしてるから、場所が分かったんです。

笑子 それに近所の男の子と喧嘩になった時も。

勇子 あれは笑子は悪くなかったわ。

笑子 男の子たちのことぶったんだよね。

勇子 少し注意しただけよ。

笑子 それから夜にハブに噛まれそうになった時も。

勇子 ハブくらいへっちらよ。捕まえて美味しく頂いたわ。

笑子 お姉ちゃん……いつもありがとう。私のこと助けてくれてありがとう。

勇子 何を言ってるの。これから私が笑子を守るわ。

笑子 ……。

勇子 だから怖がらなくていいのよ。

笑子 うん！

勇子と笑子、進もうとする。

と、進行方向から現れる好江。

勇子 ！？ 好江さん！

バタリとその場に倒れる。

駆け寄る笑子と勇子。

笑子 好江さん！？

勇子 しっかりして！ 黄燐弾！？

好江 腕が……私の腕が！

見ると、好江の腕に弾丸が。

驚く笑子と勇子。

勇子 好江さん、気をしっかり持って。みなさんのところへ連れて行くわ。笑子。

笑子 はい！

勇子、好江の腕に布などを巻き付ける。

二人で好江を支えて、はけて行く。

○森の中・ガマ

雨宿りをしているありさ、マキ、雨倉、いずみ、文。

そこへやって来る好江を支えた勇子、笑子。

勇子 助けて下さい！

雨倉 どうした！

勇子 黄燐弾が当たって、好江さんの腕が吹き飛びました。

雨倉 何！？

いずみ 好江さん……腕を……切らないと。

ありさ 切るって、誰が？

いずみ 私達で切るのよ。

ありさ そんなの、ムリに決まってるじゃん。麻酔だつてないのに！

いずみ それでも切らないといけないの！ 勇子さん！

勇子、持ち物からのこぎりを出す。

いずみ 初めは怖かったけど、いまは平気。何人もの兵隊さんの腕を切って来たわ。

ありさ 狂ってる。そんなのオカシイよ！

文 黄燐弾は、当たると皮膚がただれる恐ろしい武器です。このままにしてたら好江さんの身体は膿んでしまう。生きるためには傷口を切らないといけないんです。

いずみ 好江さんいいわね！

好江 (恐怖で) 嫌です！ やめて！ 私、このまま死にます！

いずみ 好江さん！ あなた、婚約者がいるんですよね？ 戦争が終わったら結婚するんですよね？ このまま死んでもいいんですか！

好江 でも、腕がなくなったら……自分の子供を抱くことだって出来ない！

いずみ でも腕を切らなければ、命だつてない。死んでしまつては、全てがおしまいなんですよ！

笑子 好江さん、死なないで。

文 私たちに来れることは何でもします！

勇子 どうか、生きて下さい。

好江 ……うっ……嫌です！ こんな嫌です！

泣き出す好江。

マキ、M2(食べよう・飲もう)の歌の歌詞が違うバージョンのさわりを歌う。

一同？
ありさ マキ？
マキ 好江さん、私が水を飲めない時に歌ってくれた。だから、私も、好江さんのために歌いたい！

M2 (歌詞が別バージョン)

好江と雨倉以外の一同が歌う。
やがて歌が終わり……。

好江 いずみさん……
いずみ いいんですね？
好江 ……(うなずく)。
いずみ 雨倉隊長、抑えていてくれますか？
雨倉 分った。

雨倉が好江を抑える。

ありさ 待って。これ……使って。

ポケットからウオッカを出す。

いずみ お酒……？
ありさ 消毒しないと、膿んじゅうから。
いずみ ええ。

のこぎりや好江にウオッカをかけるいずみ。
いずみ、のこぎりをあてる。

いずみ 好江さん、いいですか。
好江 ……お願いします！

暗転。

○森・ガマの中(夜)

ひとりでいる雨倉。

そこへ来る友部。

友部 雨倉上等兵！

雨倉 友部。戻ったか。

友部 報告いたします！ 北部の部隊へ偵察に行ったところ、部隊は全滅してしまいました。

雨倉 それは確かか。

友部 米軍の馬乗り攻撃にあったと思われます。至る所に焼死体が。武器は全て回収されてきました。

雨倉 そうか、アメリカめ……クソっ……！！

友部 もう逃げ隠れする場所はありません。突撃の指示を！

雨倉 待て。いまは好機じゃない。

友部 いつになったら好機が訪れるというのですか！

雨倉 少女のひとりが腕を失った。先ほど手術が終わったばかりだ。まだ意識だつて戻っていない。

友部 腕を失ったものなど、戦力にはなりません。意識のないうちに、青酸カリを。

雨倉 何を言う！ まだ16の少女だぞ。彼女の意識が戻るまで。傷がいえるまで。突撃はそれからだ。

友部 ……上等兵は変わられましたね。

雨倉 なに？

友部 手足を失って傷口にウジ虫が湧く隊員に、青酸カリを飲まずのにも顔色を変えなかった人なのに。あの娘たちがあなたを変えたのですか？

雨倉 下らないことを言うな。

友部 敵の偵察に行つてまいります。

友部、行きかけて振り返る。

友部 雨倉上等兵。私はあなたを信じます。誇り高き帝国軍人のあなたを！

友部、行ってしまう。

雨倉がウオッカを取り出し煽る。
そこへ来るありさ。

雨倉 お前か。何だ。

ありさ それ、私のウオッカなんだけど。

雨倉 煙草といい酒といい、何でこんな贅沢品を。

ありさ 返してよ。

雨倉 お前、未成年だろ？

ありさ 関係ないだろ。

雨倉 未来の世界では、未成年でも酒が飲めるのか？

ありさ 私が未来から来たって信じたわけ？

雨倉 馬鹿か。そんな戯言、信じる奴がいるか。

ありさ だったら話しても無駄だね。

ウオッカを奪って去ろうとするありさ。

雨倉 だがな――

立ち止るありさ。

雨倉 たまに無性に戯言が聴きたくなる。常に神経をとがらせた状態だと、夢物語が懐かしく思う時があるんだ。

ありさ、振り返る。

雨倉 未来は……平和なのか？

ありさ ああ。嫌ってほど平和。

雨倉 平和が嫌なのか？

ありさ そうじゃないけど、下らないことばかりで嫌になる。

雨倉 下らないこと？

ありさ 学校もバイトも下らないし、わずらわしい友達関係も下らない。新聞だってテレビだってそうだよ。

雨倉 ほお。

ありさ 特にテレビなんてね、芸能人のスキヤンダルがばっかりで。ワイドショー――

で弱い物イジメして、ネットは炎上して。バカみたい。人の浮気なんてどーでもいいのにな。

雨倉 浮気がニュースになるのか。

ありさ それだけじゃない。結婚も妊娠も離婚もニュースになる。

雨倉 信じられないな。

ありさ 他に取上げることはないのかって思うよね。

雨倉 ああ。実に下らない。

ありさ 本当下らないよね……でも……少しかだけ懐かしい……。

雨倉 ……平和になるんだな。日本は。

ありさ うん。あ、でも……地震とか災害はあるよ……だけど私の知る限り、国内での戦争はない。地震が起きたらみんな助け合っし、アメリカなんか、真っ先に援助してくれる。

雨倉 アメリカが手を差し伸べる？

ありさ そう。信じられないだろうけど。

雨倉 夢みたいなお話だ。

ありさ これから……どうするの？

雨倉 ……

ありさ 私達、助かるの？

雨倉 ……さっき部下に言われたよ。雨倉上等兵は変わったって。前は石を投げても突撃しろと命令していた。女子供関係ない。鬼畜米英に立ち向かう事。それこそが使命だと思っていた。だがいまは――

ありさ 今は――？

雨倉 ……あれはもう二ヶ月くらい前のことか。俺が腕に銃弾を受け、ケガをした時に、一人の少女が助けてくれたんだ。その子は嫌な顔ひとつせず、ウジのわく傷口のガーゼを取り換えてくれた。まだ15歳だった。教師になるのが夢だと、よく俺に聴かせてくれた。

だが……彼女は……俺のせいだ……。俺のために水を汲みに行く途中で、米兵の攻撃を受けてしまったんだ……。

ありさ ……亡くなったの？

雨倉 ああ……。

ありさ ……。

雨倉 少女には未来がある。それからだ。俺は、少女たちには生き延びて欲しい、逃げ切つて欲しい……そう願うようになった……。

ありさ それで、みんなを連れて……？

雨倉 ああ。

ありさ でも、どうしたら助かるの？

雨倉 知ってたら苦労はしない。

ありさ ……白旗を振ればいいんだ。

雨倉 何？

ありさ 降参するんだよ。

雨倉 それは、投降ってことか？

ありさ 投降って言うの？ 何かの映画で見た事ある。降参ですって白旗を振って助けて貰うの。

雨倉 そんなことは許されない！

ありさ どうして？

雨倉 お前には日本人としての誇りはないのか！

ありさ そんなこと言ってる場合？ 誇りとかプライドなんて、命と比べたら大したもんじゃない！ 死んだ女の子だって、あんたのこと生かそうとしたんだろ。あんたは助けて貰ったその命を、無駄にするの？

雨倉 ！

「雨倉隊長！」と文が走って来る。

雨倉 どうした！？

文 笑子さんが、逃げ出しました！

雨倉 何！？

文 好江さんのことが余程辛かったようで。

雨倉 ひとりで行ったのか！？

文 勇子さんが後を追いかけてました。

雨倉 行くぞ！

走って去る雨倉、ありさ、文。

〇どこかの森

笑子が走ってくる。

笑子 もう嫌！ こんなの耐えられない！ 助けて！ 助けて神さま！

静寂。

笑子 ねえ！ 神さま、どこにいるの？ それとも、いないの？

追いかけて来た勇子。

勇子 笑子、戻りましょう！ ここは危険です！

笑子 何でこんなことになったの？ 何で私達、攻撃されなきゃいけないの？

何か悪いことした？ ねえ！ 何で！

勇子 いいから戻るんです！

笑子 私も好江さんみたいに腕を失うかもしれない。私も殺されるかもしれない。

戻りたくない。こんな場所にいたくない！

勇子 いい加減にしなさい！

パシッと平手打ち。

笑子 ！？

勇子 私達は何も悪くない。

笑子 だったら何で？

勇子 今は耐えるしかない。

笑子 無理だよ。

勇子 強い意思を持ちなさい。

笑子 私には無理！

勇子 お姉ちゃんがいるから。あなたには私がいる。

笑子 ……。

勇子 だから、一緒に生きましょう！

笑子を抱きしめる勇子。

それに応える笑子。

落ち着きを取り戻す笑子。

笑子 お姉ちゃん、ごめんなさい。

勇子 戻りましょう。

哀れな目を向ける少女たち。

いずみ 勇子さん、気を確かに持ってください。

文 笑子さんの分も生きなければなりません。

好江 勇子さん。

勇子 ……私は……もう……。

勇子、懐から小瓶を出す。

勇子 生きてる意味などありません！

いずみ やめなさい！

小瓶を奪ういずみ。

勇子 返してください！ 笑子の元に行かせて下さい！

いずみ こんなことして何になるのです！

勇子 私には笑子しかいなかったのです！ 笑子のために生きて来たんです！

あの子がいなくなったり、もう誰もいないんです！ いずみさん、あなたなら私の気持ち分かるでしょう！

いずみ ……。

勇子 お願い。死なせて下さい！ 死なせて下さいっ！

その場に崩れる勇子。

ありさ もうこんなの観てられない……

マキ ありさ……

ありさ、意を決して一同に語り掛ける。

ありさ みんな、このまま逃げていても、逃げ切れるか分からない。いつまたアメリカが襲って来るか分からないし、悲しいことが起こらないとも限らない。だけど、ひとつだけ助かる可能性がある。

一同 ……？

ありさ ……投降しよう。

いずみ 投降……？

ありさ そう。生きのびるためにはそうするしかない。

文 ですが投降したら、辱めを受けた拳句、殺されると聞きました。

ありさ そんなこと誰が言ってたの？

文 兵隊さんです。

ありさ そんなの嘘だよ。

いずみ どうして嘘だと言いきれるんですか。あなただって見たでしょう！ 好江

さんだって、笑子さんだって、野蛮な米兵の攻撃を受けましたんです！ 命を

助けてくれるはずがありません！

ありさ じゃあこのまま逃げるの？ 逃げ切れると思う？

いずみ 私たちに残された道は、それしかないんです！

マキ 米兵は確かにヒドイと思う。好江さんや笑子さんのこと考えたら絶対に許

せない。でも……資料には、生き残ったのは、投降した人って書いてある

の。逃げ切れた人なんてほとんどいないんだよ！

いずみ 信じられません。投降して助かる保証はないでしょう！

ありさ このまま逃げ切れるっていう保証もない！ みんな、生きよう。ねえ、生

きようよ！

一同 ……(迷うが)

いずみ 私は投降などしません！

ありさ どうして……。

いずみ 私はこの戦争で多くの物を失いました。目の前で大切な人が次々に命を奪

われました。父、母、妹、弟……私は元より生きて帰る気はないのです。

家族の敵を討つ！ 憎き米軍に無念をぶつける！ その機会を伺いなが

ら逃げて来たのです！

勇子 私も敵を討ちます！ いずみさん、私も笑子の敵をうちたい！

ありさ そんなことしてどうなるの……そんなこと……誰も望んでない！

いずみ あなたに、私の気持ちは分かりません！

ありさ 分らないけど……でもそんなの間違ってる！

一同 ……。

ありさ 私の母親は物凄い心配性で……馬鹿みたいに毎日電話かけて来て、「もう

家についた？」「辛いことはない？」「勉強はどうなの？」ってお前は私の

友だちかよって感じの人で。ウザくて無視するようになって、そしたらも

っと心配して電話かけて来て……冷たくしても、酷いこと言っても、いつ

つも私の心配ばかりしてて。

いずみ 何が言いたいのです。

ありさ 復讐なんてエゴだつて言ってるの！ あなたの家族は、かたき討ちなんて望んでない！ 親ははいっだつて子供の幸せを願ってる！ 兄弟だつてそうだよ！ 幸せになって欲しいに決まってるじゃん！ 笑子さんだつて、あなたに生きて欲しいに決まってるじゃん！

勇子 ……笑子……

ありさ いまは辛いかもしれないけど、生きていればきつといつか傷は癒えるよ。未来は平和なんだよ。いまあんたらが死ぬことないでしょ！

好江が立ち上がる。

好江 私……ありさんの言うとおりにします。

いずみ 好江さん。

好江 ……いずみさん、私に言いましたよね。生きるよ。死んだらお終いだと。だから、投降します。

一同 ……。

文 私も、投降します。

いずみ 文さん……

文 助かるなんて保証は何もないけど、ものすごく怖いけど……でも、もう疲れました。逃げるのにも隠れるのにも。もう誰かが死ぬのは見たくないんです。

ありさ 勇子さん……あなたは？

勇子 私は……私は……

いずみ 勇子さん……

勇子 (いずみに) あなたの言う通りかもしれませんが。笑子が命をかけて助けてくれたのに、その想いを無駄になんて出来ない。私は笑子に生かされた。だったら、どんな辛い思いをしても、生きないといけない。

いずみ ……

ありさ あなたは……？ いずみは……どうする？

いずみ ……私は……

好江 (願うように) いずみさん。

文 (願うように) いずみさん。

勇子 (願うように) いずみさん。

いずみ 皆さん……分かりました……私は皆さんにとって、先生の代わりです。最

後まで、皆さんと一緒に行動します。清泉城女子学徒隊の名に恥じないよ
うに。

ありさ うん！ 私、雨倉隊長に話してくる。

走り去るありさ。

少女たちもはける。

○森（夜）

雨倉が友部と話している。

友部 いつまで待たせるんですか！ 早く突撃を！

雨倉 俺だって考えてる！ 好機を待っているんだ！

友部 いつまでそんなこと言い続けるつもりですか！ まさかあなたは……

雨倉 何だ。

友部 あなたは死ぬのが怖くなったのではありませんか？

雨倉 馬鹿を言うな。

友部 このまま逃げ切れば、いつか戦争が終わるかもしれない。あなたは日本兵
としての誇りを忘れて、生き残ろうとしてるんじゃないですか。

雨倉 黙れ友部！

その時、ありさが来る。

ありさ 雨倉隊長！

雨倉 どうした。

ありさ 私たちを——投降させてください！

雨倉 投降……？

友部 何をふざけたことを！

ありさ 生きのびるにはそれしか道はありません。

友部 お前たちは死ぬんだ！ 生きようなんて思うな！

雨倉 だが投降したからと言って助かるとは——

ありさ 分らないけど、でも、ただ一つ、ゆるぎない事実は、日本が負けるってこ
とです！

友部 何を……！ 無礼者！

ありさ 私達はもう体も心も限界です。どうか、投降させて下さい！

雨倉 だが私は帝国軍人だ。投降を指示するなんて…できん。

いずみの声 雨倉隊長！

少女たちが来る。

ありさ みんな……

いずみ 私からもお願いします！

雨倉 神里……。

少女たち お願います！

雨倉 みんな……

頭を下げる少女たち。

葛藤する雨倉。どうしていいか分からない。

友部 雨倉上等兵、そんなことは許されない！

雨倉 友部……！

友部 (少女らに) お前らに発言権はない！ 投降など日本の恥だ。日本のために命を差し出すのがお前らの務めだ！

雨倉 だが彼女たちが突撃したところで、米軍に打撃を与えられるとは思えない。

友部 何を弱気になっているのです！ いつも言っていたではないですか！

石を投げてでも立ち向かえと！ 勝ち負けの問題ではないんです！ これは日本人としての誇りの問題なのです！

雨倉 誇り……！

いずみ 雨倉隊長……？

友部 米軍に打撃を与えられないというのなら、せめて自害を！ 自害をさせるのです！

雨倉 友部、いずれ戦争が終わった時に、この沖縄を立て直すのはこいつらだ。こいつらには未来がある。

友部 未来……！？ では私には未来はないというのですか……？

いずみ 隊長は先ほどから誰と話されてるんですか？

一同 (困惑して) ……？

友部 あなたは、東京に妻子を残してきた私に、命を捨てろと言いました！ 日本のために命を差し出せと言いました！ だから私は米軍に……！ あ

あなたの指示通りに突撃したのではないですか！ あなたのせいです！
あなたが私の命を奪ったんです！

雨倉 友部……。

友部 忘れたなんて、言わせないぞ！

雨倉 ……！！

静寂。

土下座する雨倉。

雨倉 済まない友部！ 仕方がなかったんだ！ あの時は、ああするしかなかった！ 許してくれなんて言わない！ だが、どうか………どうか分ってくれ！

一同 ……！！？

友部 アメリカ兵が来ます。決断を。突撃か、自決か――。

立ち上がる雨倉。

友部 雨倉上等兵。さあ、最後の命令を！

雨倉 ……

友部 ……

少女たち ……

雨倉 最後の命令だ。……逃げろ！

友部 ……？

雨倉 早く逃げるんだっ！ ここは俺が食い止める。丘に行つて白旗を振れ。絶對に生きろ！ 生き延びろ！ これが俺からの最後の命令だ！

少女たち ……ハイ！

いずみ 雨倉隊長………ありがとうございました！

少女たち ありがとうございます！

頭を下げる少女たち、やがて去る。

友部 それがあなたの答えですか……。

雨倉 情けない。

友部 ええ……

雨倉 俺は軍人失格だ。

友部 ええ……しかし……

雨倉 ……(足音に気付き)来たか! 米軍め!

米兵の方へ走る雨倉。

それを見送る友部。

友部 人間としては正しいのかもしれませんが。

そう告げ、反対方向に消えて行く。

○山の開けた場所へ

逃げて来る少女たち。

ありさ この丘なら、私たちの姿が見える。

いずみ でもどうやって。相手は私たちが投降しようとしていることをしらない。

ありさ 歌えばいいんだ。

いずみ 歌?

ありさ 歌って近づいて来る女の子を、撃つわけがない。

いずみ わかった。みんないい?

一同 はい!

少女たち力強く頷く。

M1 (校歌)

一同が歌う。

やがて歌が終わり……。

手を繋いで一列になり、一歩一歩前へ出る一同。

好江 私達は生きる!

文 生きて夢を叶える!

勇子 妹の分まで生きる!

ありさ 生きて幸せになる!

マキ 私達は生きる!

ありさ 誰……!!??

現れたのは岡本だった。

ありさ え!?

岡本 お前、何やってんだよ、こんなとこで。

ありさ ……岡本。何で岡本が……?

岡本 何でって、そりゃあ担任なんだから探すに決まってる。お前こそ勝手に抜け出してどういふつもりだよ。

ありさ 夢……??

岡本 てか。制服。泥だらけにして。

ありさ 夢じゃない。みんなは? 先生、みんなはどこ?

岡本 落ち着けて。みんなって誰だ?

ありさ いずみに文さんに勇子さん。それからマキ! どうしよう、マキ撃たれたのに! 早く病院連れて行かないと!

岡本 マキ?

ありさ マキだよマキ! 私が一緒に抜け出そうって言ったから!

岡本 悪い。マキって誰だ?

ありさ 辻マキだよ。同じクラスの。BL好きのマキ。

岡本 ウチに辻マキなんて生徒はいないぞ。

ありさ え……?? どういうこと……??

岡本 ほら行くぞ。平和学習コース。まだ終わってないんだから。

ありさを連れて行く岡本。

と、逆側から制服を着た少女たちが現れる。

ありさのスマホが鳴る。

ありさ (慌てて取って) もしもし! お母さん……うん。私は大丈夫。話したい事たくさんある。お母さん、いままで……ごめんね……帰ったら、煮物食べさせてね。

電話が切れる。

少女たち ありがとうございました!

はける少女たち。
そこには老婆だけが取り残されており。

老婆 こんにちは。

ありさ ……。

老婆 あなたのこと、待ってたのよ。

ありさ え……

老婆 ずっと待ってたのよ。

ありさ スミマセン、戦争なんて興味なくて、それでサボって抜け出して……そしてたらマキを置いてきちゃって……私……最低……私……。

老婆 私はここにいますよ。

ありさ ……

老婆 私がマキだよ。

ありさ え……？

老婆 こんなお婆さんになっちゃったら、分からないわよね？ これを見せたらどうかしら？

ＢＬ本を出す。

ありさ これ……マキ……なの……？

老婆 ええ。あなたのこと、71年も待ってたの。

ありさ マキ、ごめんなさい！ 私、マキのこと置いて行ってごめんね！

マキ フッフ。……私はあなたのこと恨んだことなんて一度もないよ。またこうして会えてうれしい。

ありさ マキ……。

マキ あの日、1945年の6月——。アメリカ兵に投降した私たちは、銃撃を浴びた。アメリカ兵の誤射だった。

ありさ 誤射……？

マキ ええ。私は腹を撃たれたけど、アメリカの医療班のお蔭で一命をとりとめたんだ。

ありさ じゃあ……

マキ 他の女子学徒隊はほとんどが亡くなってしまった。でも私たちは、ありさと雨倉隊長のお蔭で生きのびることが出来たんだよ。投降した後、私達は

収監されて、戦争が終わると、やがてそれぞれ生活に戻って行ったんだ。

ありさ みんな……生きたんだね！

マキ ああ。そうさ。

ありさ 良かった！

マキ ありさ、覚えてる？ 我那覇文さん。

文が出て来る。

マキ 彼女はこの戦争のことを後世に伝えようと、本土の学校を周ったんだ。もう同じ過ちは二度と起きて欲しくないってね。

ありさ 文さん。

マキ 下地好江さんのことは覚えてる？

出て来る好江。

マキ 残念ながら許嫁は戦死してしまった……。でも好江さんはお見合いで別の方と結婚して、子供を5人も産んだのよ。

ありさ 良かった。

マキ それから上江洲勇子さん。

勇子が出て来る。

笑子の手を引いている。

マキ 彼女は学校に戻って教員免許を取ったんだ。妹の笑子さんの分まで生きたんだよ。

ありさ 勇子さん……笑子さん……

マキ そして神里いずみさん。

いずみが出て来る。

マキ いずみさんは戦争が終わってから、家族の骨を捜してね。何年もかけて探し続けて。ついに墓を建てる事が叶ったんだ。

ありさ いずみ……良かった。

マキ ついこの間まで、私と一緒に戦争体験を話していたんだけど——最後は、

ありさに会いたって言いながら、寿命を全うしたよ。

ありさ ……みんな……。

マ キ 私達は生きた。戦争を越えて、生き延びた。だから今度はあなたの番。

ありさ 私……？

マ キ そうさ。生きるんだ。もしもくじけそうになったら、あの6月のことを思い出せばいい。あれ以上に辛いことはそうそうないさ。きっと乗り越えられる。ありさ、あなただったら前に進めるよ。

ありさ ……。

マ キ だから生きて。2016年のいまを――

少女たち 生きろ！

M3 (希望の歌)

力強く歌う少女たち。

やがて音楽が終わり――ありさの顔には、明日への希望が

満ち溢れている。

(おわり)